

俳句創作指導の実践

——俳句甲子園出張講座を中心に——

樫 本 由 貴

1 目的と問題意識

本稿は平成30年告示の新学習指導要領の施行後に高等学校国語科で行われる俳句創作指導の向上に寄与することを目的とし、稿者が松山市主催・俳句甲子園出張講座⁽¹⁾で行ってきた俳句創作指導の実践を報告するものである。

俳句そのものを授業する（俳句を教える）場合でも、俳句を用いて何らかの目的を達成する（俳句で教える）場合でも、指導者は俳句の実作と鑑賞のポイントを正しく理解している必要がある。これは、俳句が実作と鑑賞が表裏一体の文芸であるからである。これらを知ることは、新学習指導要領の「言語文化」における「A 書くこと」の指導事項「自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫すること」の指導に不可欠であるし、学習者が「B 読むこと」の言語活動例「A 文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えること」、「I 作品の内容や形式について、批評したり討論したりする活動」をより効果的に行うことに繋がる。

新学習指導要領では創作と鑑賞のポイントに「本歌取り」「折句」が取り上げられている⁽²⁾が、稿者はこのような技巧ではなくより基本的な俳句の創作方法こそが創作と鑑賞のポイントだと考える。その一つが本稿で中心となる「取り合わせ」という「12音+季語」あるいは「季語+12音」という構成で俳句を作る方法である⁽³⁾。創作や鑑賞において俳句の「構成」に着目することは難しく思えるかもしれないが、その実季語の本意や抒情を読み取るよりも簡単である。例えば飯田蛇笏の〈くろがねの秋の風鈴鳴りにけり〉⁽⁴⁾の句の意味内容は「秋に黒鉄の風鈴が鳴った」という単純な景色であり、容易に読み取れる。この句を句の構成に注目する場合、以下のような観点が考えられる。

- ①この句は五七五の上の五音（上五）を「くろがね」から始め、季語「秋の風鈴」を中の七音（中七）に置き、「鳴りにけり」と下の五音（下五）を詠嘆で締める構成である。
- ②季語が中七に来ている構成は、初心者には難しい技巧である。
- ③この句は一句一動詞の基本が守られている。

④「くろがね」と「風鈴」は言葉から連想されるイメージの距離感が遠いようで緊密であり、「くろがね」が風鈴の材質を述べることに終始する潔さがある（説明的ではなく、情感がある）。

特に「季語が中七にある」技巧は、学習者が俳句創作を経て体感できる点で「書くこと」「読むこと」両方で重要なポイントである。掲句は思いや体験を前面に出しておらず、構成に注目する以外の観点での鑑賞は限られた時間では難しい⁽⁵⁾。しかし句の構成に注目すれば、鑑賞は目にしている俳句、その一句だけで完結し、創作によって鑑賞したポイントを体感できる。学習者に対して俳句の構成に注目させ、句に共感せずとも鑑賞文が書けることを経験させることは、俳句を読むことや作ること、ひいては国語を苦手とする学習者に興味関心を抱かせるきっかけともなるだろう。

以上を踏まえ、本発表では俳句甲子園の評価の観点に基づいた鑑賞と実作に焦点化した指導実践を報告する。俳句甲子園出張講座における俳句創作指導の実践を報告することは、学校現場で今後行われる国語科教育での俳句創作指導の向上に寄与すると考える。

2 俳句甲子園出張講座 梗概

俳句甲子園出張講座では、講師は俳句甲子園出張講座の講師として名簿入りしているメイン講師と、メイン講師が選定したサブ講師2人のおよそ3人が派遣される⁽⁶⁾。対面で実施される場合、会の始めの自己紹介やアイスブレイク、会の最後の作品の表彰の時間などを除くと以下が講座の主な活動となる。全体は6～7時間のプログラムで、①から③は午前中、④は午後に行われる。

- ① 俳句の基礎知識・作り方についての解説
- ② 学習者の俳句実作（2句）
- ③ 実作の仕上げ・ディベートの準備
- ④ 俳句甲子園形式の模擬試合（45分×3試合）

本稿は生徒の創作活動である①②と、創作を経て自分たちの鑑賞を相手チームと検討しあう④の活動を報告する。分析に用いたのは、以下の三つの講習会の実践である。

ア・2017年7月実施の鳥取県での講座…8校27名の学習者と8名の教諭が参加。

イ・2018年3月実施の佐賀県での講座…5校17名の学習者と5名の教諭が参加。

ウ・2019年2月実施の鳥取県での講座…3校7名の学習者と3名の教諭が参加。

アの2017年7月の鳥取講座は俳人の大塚凱⁽⁷⁾がメイン講師を務めており、稿者はサブ講師として参加している。イ・ウは稿者がメイン講師を務めた。参加する生徒数はばらつきがある。3つの実践の選出理由は、一つ目にア・ウは同じ県の実施であるが人数が異なり

実践に違いがあること。二つ目にイは最もスタンダードな形の実作指導をしており、指標となるためである。

3 出張講座の実践

3-1. ①俳句の基礎知識・作り方についての解説

本節では標準的な実作指導のイと、一人の俳人の連作⁽⁸⁾を読み込んだウを取り上げる。

【イ・2018年3月実施の佐賀県での講座】

イの講習会では、俳句を「見る」「聞く」「読む」を視点に指導した。「春の季語」「その他の季節の季語」「無季俳句」「自由律俳句」と項目を立て、掲出した句を学習者が黙読後、講師が音読した(図1)。音読の際、学習者には聞きながら読みが分からなかった単語に振り仮名をうったり、俳句のリズムを掴む為に斜線を入れたりするように指示している。〈車にも仰臥という死春の月 高野ムツオ〉⁽⁹⁾の句であれば、講師はまず「車にも／仰臥という死／春の月」と五七五で読み、次に「車にも仰臥という死／春の月」と、意味の切れを意識して読む。サブ講師は机間巡視し、斜線に迷っている学習者がいれば助言する。

図2では、講師の音読の指標であった切れ字の説明をし、実作で用いる「取り合わせ」の手法では「や」が重要になる⁽¹⁰⁾ことを強調した。

図1

● 俳句を「見る」・「聞く」 まずは俳句を見てみましょう。ピンとくる俳句がありますが、その「ピン」が、俳句を読む大事な手掛かりです。	▼ 春の季語 いきいきと三月生る雲の奥 チューリップ喜びだけを持つてゐる パンにバタたつぷりつけて春惜む 産声のまはりの無音花吹雪 歌謡は漕ぐべし愛は奪うべし 車にも仰臥という死春の月 春の水とは濡れてみるみづのこと 軋みつつ花束となるチューリップ	▼ その他の季節の季語 身をそらす虹の	▼ 絶巖 <small>せきがん</small>	▼ 処刑台 雨に気付いてほうたるを見失ふ どの碑にも蟻ゐるそれも大きな蟻						
飯田龍太	細見綾子	久保田万太郎	鶴岡加苗	三橋麗女	高野ムツオ	長谷川權	津川絵理子	高柳重信	森優希乃	椋本由貴

図2

▽	「で切れる句 筍や雨粒ひとつふたつ百 みつちりと合挽肉や春の海 七月や藍透けてゐる午後の風	藤田湘子 佐藤文香 竹中佑斗
▽	「で切れる句 若鮎の二手になりて上りけり 飛込の途中たましひ遅れけり 葛餅の黄粉必ず余りけり	正岡子規 中原道夫 小野あらた
▽	「で切れる句 流れ行く大根の葉の早さかな よろこべばしきりに落つる木の実かな 人類に空爆のある雑煮かな	高浜虚子 富安風生 関悦史
▽	切れ字のない句 産声のまはりの無音花吹雪 産むというおそろしきこと青山河 叱られて姉は二階へ柚子の花	鶴岡加苗 寺井谷子 鷹羽狩行

【ウ・2019年2月実施の鳥取県での講座】

この実践では大塚凱の第7回の石田波郷新人賞受賞作品「しづかな拳」⁽¹¹⁾を教材として用いた。まず漢字の読み方や季語の意味などの補助資料なしで連作「しづかな拳」のみを示したプリントを配布し、学習者が黙読する時間をとった。黙読中には「好きな言葉」に傍線、読みや意味の解らない言葉に波線を引いたり、季語だと思ふ言葉に印をつけたりするよう指示した。その後、註や振り仮名によって解説を入れ、季語を太字にした図3を示してイの実践と同じ注意点に基づいて、講師が2回音読した。この時学習者が「しづかな拳」の俳句を鑑賞する必要はない。

次に一物仕立てと取り合わせの説明を行った（図4）。

この後、実作の場面で感情や報告⁽¹²⁾を俳句にしている学習者には「しづかな拳」と見比べて自分の俳句がより「しづかな拳」の句に近づくためにはどうしたらよいか助言すると、戸惑いつつも報告や感情を示す語を書き直す学習者がみられた。鑑賞しなくても、眺めたり音読したりするだけで俳句らしさを学習者なりに解釈していたことが分かる。

実作に入る直前には、図5のプリントを用いて季語による句の雰囲気の変化をグループ内で検討した⁽¹³⁾。

図 3

しづかな拳

鯛焼を持ち替へて出す入場券
売店のストープに寄り相識らず
冬帽の睡れるコインランドリー
駅に倅めば砂時計のころ
あしあとほどこへもゆかぬ暮雪かな
まつしろに船は余寒の水を吐く
しんしんと未踏へ還る夜の干潟
いもうとと交る雀を見てをりぬ
あをぞらを花粉とぶ日よ投函す
海市見てゐるあしうらの重たい血
改札に葬儀屋の立つ遅日かな
ぼうたんを風の結び目とも思ふ
母の日や詩を読むときの声若く
何聴くとなくまなぶたに五月の陽
ポケットの拳しづかに虹立てり
向日葵や靴の中の水鳴れる
巴里祭の鳥のことばがやがて雨
頭蓋骨ほどの蓮を夜は隠す
靴下を干して花火の見えぬ窓
ものあれば指紋あふれて暑い部屋

大塚 凱

相識(し)らす..お互いに
知らないこと..眠つてい
る(ねむ)れる..眠つてい
ること

倅む(かじか・む)

暮雪..

干潟(ひがた)

交る(さか・る)
鳥交る..鳥が求愛行動をし
てさかんにさえずり..交尾
する(にさえずり)..交る
雀..は鳥交るの傍聴..交る
と春の雀(し)..暖気様のこ
と春の雀(し)..

遅日(ちじ)..

ぼうたん..牡丹のこと..俳
句では..音数のために「ぼ
たん」を「ぼうたん」と伸
ばすことがある

巴里祭..フランス革命記念
十四日..夏の季語名..七月
蓮(はす)..蓮の花のこ
と

「言葉の力を生かす俳句の手法① 一物仕立て」

ものあれば指紋あふれて暑い部屋 大塚 凱
黒揚羽とほくに見えて奥に消ゆ 堀下 翔
まだ雪に気づかず起きてくる音か 岩田 奎
みづうみに伝説のある十二月 斉藤 志歩

対象を丁寧に「し、し、し、それを言葉にしていく。」

Q 次の句の季語が別の季語なら、一句の雰囲気はどう変わるだろうか？

鯛焼を持ち替へて出す入場券 ↓「菊の花」「春コート」
母の日や詩を読むときの声若く ↓「父の日」「雲の峰」
向日葵や靴の中の水鳴れる ↓「紅葉」「初日の出」

言葉の力を生かす俳句の手法② 取り合わせ

母の日や詩を読むときの声若く 大塚 凱
教科書に奴隷の話大西 日 牛田 大貴
馬の背のカーブするどく冬の朝 森優 希乃
交番の壁に路線図おぼろ月 斉藤 志歩

「モノとモノとをふつつける(一見関係ない言葉同士) ↓」

図 4

しづかな拳

鯛焼を持ち替へて出す入場券
売店のストープに寄り相識らず
冬帽の睡れるコインランドリー
駅に倅めば砂時計のころ
あしあとほどこへもゆかぬ暮雪かな
まつしろに船は余寒の水を吐く
しんしんと未踏へ還る夜の干潟
いもうとと交る雀を見てをりぬ
あをぞらを花粉とぶ日よ投函す
海市見てゐるあしうらの重たい血
改札に葬儀屋の立つ遅日かな
ぼうたんを風の結び目とも思ふ
母の日や詩を読むときの声若く
何聴くとなくまなぶたに五月の陽
ポケットの拳しづかに虹立てり
向日葵や靴の中の水鳴れる
巴里祭の鳥のことばがやがて雨
頭蓋骨ほどの蓮を夜は隠す
靴下を干して花火の見えぬ窓
ものあれば指紋あふれて暑い部屋

大塚 凱

相識(し)らす..お互いに
知らないこと..眠つてい
る(ねむ)れる..眠つてい
ること

倅む(かじか・む)

暮雪..

干潟(ひがた)

交る(さか・る)
鳥交る..鳥が求愛行動をし
てさかんにさえずり..交尾
する(にさえずり)..交る
雀..は鳥交るの傍聴..交る
と春の雀(し)..暖気様のこ
と春の雀(し)..

遅日(ちじ)..

ぼうたん..牡丹のこと..俳
句では..音数のために「ぼ
たん」を「ぼうたん」と伸
ばすことがある

巴里祭..フランス革命記念
十四日..夏の季語名..七月
蓮(はす)..蓮の花のこ
と

「言葉の力を生かす俳句の手法① 一物仕立て」

ものあれば指紋あふれて暑い部屋 大塚 凱
黒揚羽とほくに見えて奥に消ゆ 堀下 翔
まだ雪に気づかず起きてくる音か 岩田 奎
みづうみに伝説のある十二月 斉藤 志歩

対象を丁寧に「し、し、し、それを言葉にしていく。」

Q 次の句の季語が別の季語なら、一句の雰囲気はどう変わるだろうか？

鯛焼を持ち替へて出す入場券 ↓「菊の花」「春コート」
母の日や詩を読むときの声若く ↓「父の日」「雲の峰」
向日葵や靴の中の水鳴れる ↓「紅葉」「初日の出」

言葉の力を生かす俳句の手法② 取り合わせ

母の日や詩を読むときの声若く 大塚 凱
教科書に奴隷の話大西 日 牛田 大貴
馬の背のカーブするどく冬の朝 森優 希乃
交番の壁に路線図おぼろ月 斉藤 志歩

「モノとモノとをふつつける(一見関係ない言葉同士) ↓」

図5

練習1…次の一句に、季語シートから好きな季語を入れてみよう。

○○○○○塔に鉄骨あらはなる

斉藤志歩

練習2…季語を入れて「塔に鉄骨あらはなる」の句を書いてみよう。

練習3…どうしてその季語にしたのか考えよう。

練習4…グループで見せ合おう。相手はどんな季語を入れて、自分はその季語を入れて、一句をどう思うか話し合ってみよう。

作者、斉藤志歩さんの一句

斉藤さんの一句を、どう感じたかメモしておこう。

3-2. ②学習者の俳句実作

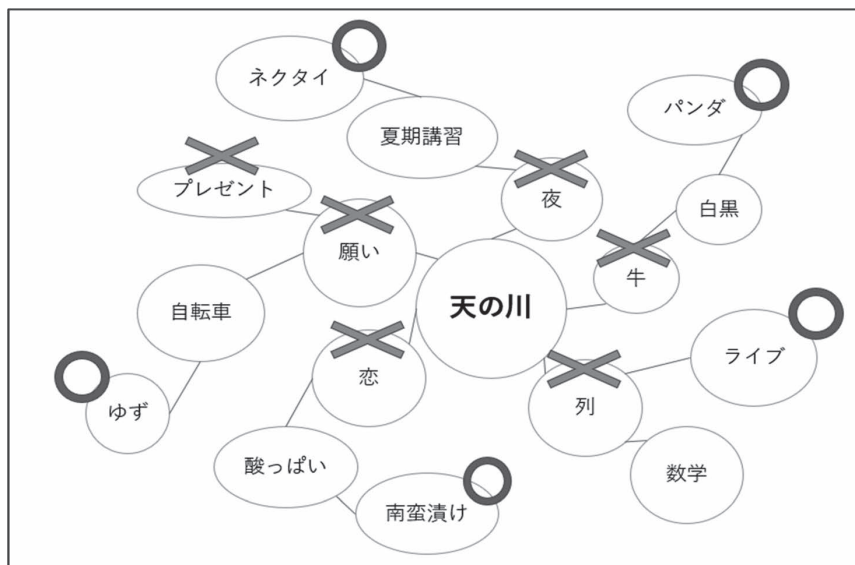
「取り合わせ」の句を初心者向けの俳句創作の方法として提唱し始めたのは藤田湘子であるといわれる⁽¹⁴⁾。初心者向けの手法と言える理由を、夏井いつきは取り合わせを「つぶやいたフレーズが季語の力を借りて即座に作品として成立する」からだと説明する⁽¹⁵⁾。本実践もこれに倣うものだが、類想類句を避ける手立てとして、実作の前に佐藤文香が考案するエクササイズ「打越マトリクス」⁽¹⁶⁾を使って言葉の距離を離す訓練をしている。打越マトリクスでは次の手順で図6のようなマップを作成する。

- ・題に出された季語を紙の中心に書き連想する言葉をマップにして書く
- ・マップを書き終わったら、季語から直接出ている連想される言葉を消していく
- ・3～4周目あたりの言葉を使って、12音のフレーズが作れないか検討してみる

図6では、「天の川」―「恋」や、「天の川」―「牛」の連想は言葉の発想の距離が近いため、句には入れさせない。学習者への有効な助言には、例えば「天の川」から「恋」―「酸っぱ

い」を連想した後「酸っぱい」をマップの中心に置き直したと仮定して言葉を繋げるように助言することが考えられる。季重なりについては適宜助言する⁽¹⁷⁾。

図 6



マップ完成後は、一句の中に複数の動詞がある場合は名詞と入れ替えられないか、類想になっていないか、取り合わせのパターンが守られているかなどを気にしながら形をさらに整えさせる。指導を経て俳句甲子園に初出場した鳥取県米子工業高等学校と倉吉北高等学校の俳句甲子園エントリー時の投句を一部示す⁽¹⁸⁾。

【鳥取県米子工業高等学校】

スパイクの跡深き芝蛙飛ぶ 柏田幸大
 気持ちよく鳥を数えて春眠す 足立正人
 十八の腹筋の剛桜の実 宮田兼進

【倉吉北高等学校】

世の中の非情を伝える蛙道 大下芽生
 春眠の夢の中にて君に会う 遠藤花菜
 賑やかな春の日恋し桜の実 谷口さくら

どちらも全国大会には進んでいないが、両校を比較すると米子工業高等学校の生徒は取り合わせのパターンを理解して句を作成していることが分かる。

3-3. ④俳句甲子園形式の模擬試合

俳句甲子園の模擬試合を行う。鑑賞力を競うのだが、講習会では初めて試合を行う生徒ばかりのため、円滑には行われない。そのため講師は「提示されている相手チームの俳句の情景は分かるか。わからないのであれば、どの言葉の意味が分かれば情景が分かりそうか。」などの声掛けをする。また、質問する側の読解が行われていないような質問はいったん質疑を中断し、自分は相手チームの句のどこが気になったのかを言語化させる。③実作の仕上げ・ディベートの準備の際にグループで自分たちの句の読みを固められていれば、質問された側は応答の準備が出来ている状態なので、1往復がスムーズに行われる。グループの中で1～2人は積極的に手をあげる学習者が出てくるし、発言できなかった学習者も「何を質疑応答しあっているのか」は理解できる空間になる。

モデルケースは俳句甲子園全国大会の決勝大会で行われる質疑応答だが、出張講座では学習者が自発的に質問できるようになる、相手の応答から次の質問の糸口を見つけられる、が目標となる。

質疑応答終、審査員であるメイン・サブ講師が紅白の旗をあげて勝敗を決定する。作品点の付け方は俳句甲子園本大会の審査基準に準拠する。

以上が、俳句甲子園出張講座で行われる俳句創作の実践である。

4 おわりに

本発表の目的は俳句甲子園出張講座における俳句創作指導の実践を報告し、学校現場で今後行われる国語科教育での俳句創作指導の向上に寄与することである。しかし本実践は俳句甲子園出場校の増加が目的のため、本実践を国語科教育に寄与するものとするには視点を変えなければならない。例えば、本実践では個人個人の成長のプロセスは評価していないが、パフォーマンス評価の視点を用いれば、国語科の実践と結び付けられるのではないだろうか。

俳句を言語活動とした授業では、学習者に“五七五の形で、季語が入っていれば俳句”という知識に収まる体験ではなく、構成を練ったり言葉のイメージの距離を考えたりすることを通して「良い俳句」を作ったという経験をしてほしい。初心者向けの指導方法が整った俳句は、程度の水準までは教師側の指導で学習者全員が作品を書くことができる。学校での創作活動において、学習者がとりあえずの経験を積むのではなく、「詩」の書き方や読み方は学べるものだと知り、その知識を用いて実作や鑑賞を体験することが肝要である。俳句を言語活動例とすることで、こうした体験は他の文芸形式よりも気軽に行うことができる。

先述の佐藤の俳句創作WSの実践の参加者は、翌年に着任した中学校で佐藤の授業を参考にして授業を行った。このクラスからは2020年度一茶まつり全国小中学生俳句大会で特選に入選した学習者が出た⁽¹⁹⁾。このように、実作者の創作実践を現場に取り入れることは十分可能であると言える。

注

(1) 俳句甲子園（正式名称：「全国高校生俳句選手権大会 俳句甲子園」）は、全国の高校生が俳句とその鑑賞の巧拙を競い合う大会。試合は、赤白に分かれて俳句の巧拙を競い合う歌合せや句合わせのルールを下敷きになっているが、個人戦ではなく1チーム5人の団体戦であり、3分または4分の鑑賞がそれぞれのチームの句に対して行われることが特徴である。審査員は、俳句の出来を10点満点（作品点）、鑑賞を2点満点（鑑賞点）で評価する。審査員に対して、大会運営側からは作品を採点する際のガイドラインが公開されている。俳句甲子園出張講座とは、俳句甲子園の協賛である松山市が俳句甲子園出場校を47都道府県すべてから募ることを目標に開催している初心者講座である。

(2) 「読むこと」の言語活動例に「ア 本歌取りや折句などを用いて、感じたことや発見したことを短歌や俳句で表したり、伝統行事や風物詩などの文化に関する題材を選んで、随筆などを書いたりする活動。」とある。

(3) 夏井いつきや佐藤文香をはじめとした俳人は、初心者には俳句をレクチャーする場合に必ず「一物仕立て」「取り合わせ」の方法を教えるが、「本歌取り」や「折句」は紹介に留める場合が多い。なぜなら俳句を賞やコンクールに応募する場合、目立つ技巧は上質でなければ受け入れられないからである。高校生を対象とした投句料無料の俳句の大会は伊藤園主催の「お〜いお茶新俳句大賞」、神奈川大学主催「青春俳句大賞」、一茶記念館主催の「一茶忌俳句大会」等がある。このうち、第22回「青春俳句大賞」の最優秀賞は5組15句あるが、いずれにも本歌取りや折句といった技巧はない。最優秀句から一組挙げると、

駄菓子屋のくじ大当たり大暑かな 小林怜子

冷蔵庫異国の市の句ひして

秋涼し地層のごときチョコレート

これらは、身近な発見や体験を「取り合わせ」の手法を用いて季語と響き合わせている。「本歌取り」「折句」といった技巧は用いられていない。授業で作った俳句作品を賞に応募することもある現状、ある程度学習者の自己肯定感を高めるためにも、「評価される俳句」を作る視点での創作活動も必要と考える。

- (4) 『靈芝』改造社 (1937)
- (5) 小島健が掲句を「鉄の風鈴の音色から、にわかには秋の季節の到来を感じ取ったのが詩人である。静寂を深め、寂寥感を誘う作品」と鑑賞する (NHK カルチャーラジオ『大正俳句のまなざし』2010・21頁) ように、夏の季語の風鈴が秋に鳴るといふ季の時間の裏切りに「写生」の眼差しを指摘し、さらに風鈴の材質が句に重みを与えているとするのは掲句の鑑賞におけるセオリーと言える。さらに、小島はこの句が〈秋来ぬと目にはさやかに見えねども風の音にぞおどろかれぬる 藤原敏行〉を踏まえていることを読み取って鑑賞しているといえるだろう (しかし掲句は所謂「本歌取り」ではない)。このように「季語」の抒情を理解した読みは、本意を多くの古典を遡って掴まなければ引き出せない。
- (6) 参加人数が40人以上となるような大規模になる場合はメイン・サブ講師ともに増やされる場合がある。
- (7) 第7回石田波郷新人賞、第2回円錐新鋭作品賞夢前賞受賞。佐藤文香編著『天の川銀河発電所 Born after 1968 現代俳句ガイドブック』左右社 (2017) 入集。
- (8) 一句のみで作品として完結するのではなく、複数の俳句をまとめて (3~100句以上など、句数は賞や作家の判断によりさまざまである) 一作品としたもの。
- (9) 『萬の翅』角川学芸出版 (2013)
- (10) 「かな」「けり」を用いても取り合わせ (二物衝撃) の句を作ることは可能だが、初心者には切れの位置と取り合わせの二物の結合が一致しているほうが鑑賞・実作で理解しやすい。
- (11) 『第7回石田波郷賞作品集』(2015)
- (12) 初心者のうちは、「嬉しい」「悲しい」等の感情や「どこでどうした」という報告は避けるべき表現。
- (13) 原句は〈しぐるるや塔に鉄塔あらはなる 齊藤志歩〉。第8回石田波郷新人賞受賞作品「すこしにぎる」より。
- (14) 湘子の『20週俳句入門 第一作のつくり方から』立風書房 (1988) が、入門書で「取り合わせ」を前面に出した本の走りと言われる。
- (15) 三浦和尚・夏井いつき編著『俳句の授業が出来る本 創作指導ハンドブック』三省堂 (2011) 12頁には、
- 夕焼けの空が真っ赤にそまってる
虫たちはきれいな声の合唱団

季語「夕焼け」は空の事象であり、赤く染まるのはあたりまえのこと。これらの月並の発想にはなんのおもしろみもありません。「虫」を擬人化し「きれいな声の合唱団」と表現してはいても、この擬人化そのものが陳腐な発想。(中略=稿者)「じつと観察しなさい」と言われても、子どもたちが飽き飽きしてくるのはあたりまえです。

とあり、「一物仕立て」の句に必要な物事の観察の過程が子どもに不向きだとしている。

(16) 佐藤文香編『俳句を遊べ!』小学館(2016)。佐藤は「俳句実作ワークショップ 君は自分の言葉に驚くことができるか!?!」『論叢国語教育学』広島大学国語文化教育学研究室(2020・07)に掲載されているWS(実施は2019年7月)においても同様の方法で実作ワークショップを開催した。「打越」が連歌・連句で付句の前々句のことを指し、マップにおいて「打越」にあたる連想マップの中心から3つ目の部分は、連句と同じく転じることが肝要のためこのように呼ばれている。

(17) 図6では「夏期講習」は夏の季語、「天の川」は秋の季語である。「夏期講習」を俳句で使おうとしている学習者には、「天の川」の季節感を尊重するため「夏期講習」から「夏期」を落として「講座」と使ったり「講義」としたりする代案を提示する。

(18) 『俳句甲子園公式作品集 第7号』(俳句甲子園 OBOG 責任編集・NPO 法人俳句甲子園実行委員会・2019)

(19) 主催・炎天寺。特選に入選した句は〈夏シャツで太鼓がドンと鳴る方へ 遥陽(名前しか公表されていない)〉。<http://www.entenji.com/sakuhin>

(広島大学大学院教育学研究科博士課程後期)